

vol.50-12 (通算 573号)

2021年3月号

The logo for 'Yadokari' (やどかり) is displayed in a large, blue, stylized font. The characters are rounded and friendly-looking, set against a light blue background within a white rectangular frame.2021年3月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円 (含会費)

2020年度総括会議開催

仲間とつながり学び合い運動につなげる

2020年度のやどかりの里の活動を振り返り、今後に向け意見交換を行う総括会議が2021年2月20日に行われた。今年度はCOVID-19の感染拡大に伴う緊急事態宣言下での活動開始となり、さまざまな感染症対策を図りながら事業を継続してきた。今回の総括会議も4つの会場と個人の自宅などに分かれ、参加者の人数を分散し、すべての会場をオンラインでつないだ。午前、午後の2部構成とし、午前は今年度のやどかりの里の活動報告、午後は社会福祉法人鴻沼福祉会の常務理事斎藤なを子さんをゲストに迎え、増田一世理事長との対談（詳細は本紙2頁）を行った。参加者はメンバー、家族、職員総勢65人であった。

今年度の法人全体の総括として、やどかりの里の5つの課題に沿って活動を振り返り、各活動のトピックスが報告された。特に年度当初は感染予防対策に追われ、「何が正解か分からない」という思いを抱えながら活動を継続させていたという声もあった。さらにCOVID-19感染拡大により、各事業所の通所人数を制限せざるを得ない状況が続いた。そのため報酬を日額払いとした障害者総合支援法による制度の影響が大きく、報酬は減収となった。今後のワクチン接種への準備など、検討すべきことが山積している。

一方、そのような状況下であっても、オンライン開催による研修や学習の機会が定着し、若手を中心とした自主学習会も立ちあがるな

ど、50周年を迎えたやどかりの里や、障害のある人の置かれてきた歴史を学ぶ時間をつくりだしてきた。また、すでに法人内各所で活躍しているピアサポーターとの共同研究の取り組みや、新たなピアサポーター養成講座の開催など、メンバーがその経験を活かして働く機会を広げていく取り組みも行ってきた。

昨年度から始動した「見沼の文化とSDGsを意識した協働創造のソーシャルファームづくり」（略称：つなぐ・つくるプロジェクト）は2年目を迎えた。多様な地域課題を明確にし、循環する地域づくりを目指して、ヤギカフェやキッチンカーとともに地域を巡回する取り組みを始めている（詳細は本紙3頁）。

当日のグループ討議でも、学習の機会の重要性や、その意義、知ることの大切さなどの意見も多く出された。特にピアサポーターの存在意義や有効性、その価値について、法人内で共有する機会を求める声もあがり、新たな取り組みへの期待度が増している。

2021年は国際障害者年から40年、雑誌「響き合う街で」は創刊100号、やどかりの里も51年目を迎える。私たちがにぎって離してはいけないものは何か問われている。多様な人や活動との出会い、仲間と手をつなぎ、歴史を学び、運動につなげていく。やどかりの里はこれからもあゆみを止めず、生き生きとした実践を織り成していくことが確認された時間となった。